

経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 羽生市

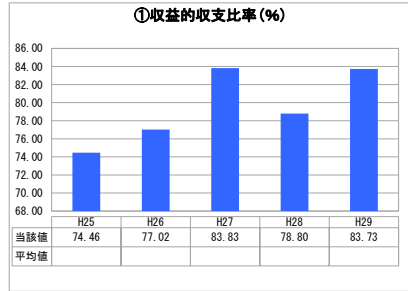
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	36.59	80.82	1,890

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,243	58.64	942.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
20,159	4.09	4,928.85

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



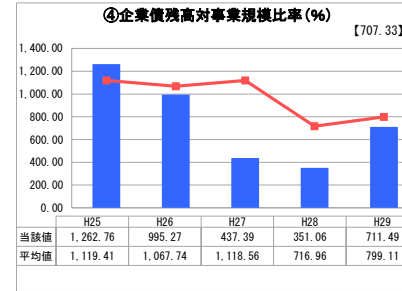
「単年度の収支」



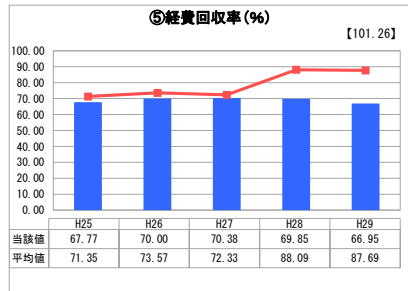
「累積欠損」



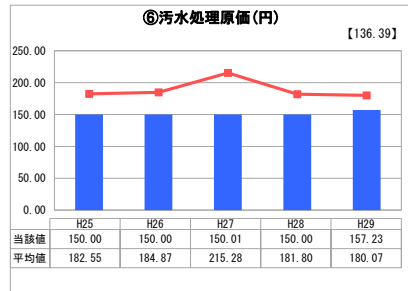
「支払能力」



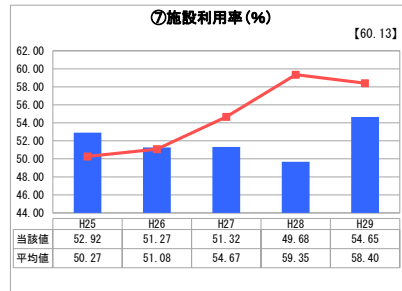
「債務残高」



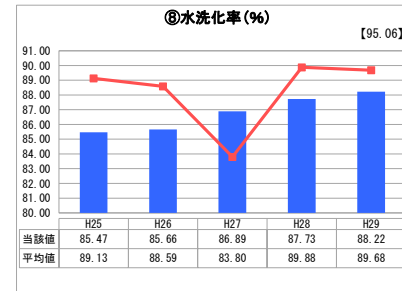
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

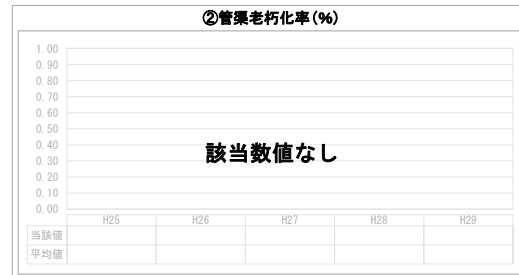


「使用料対象の捕捉」

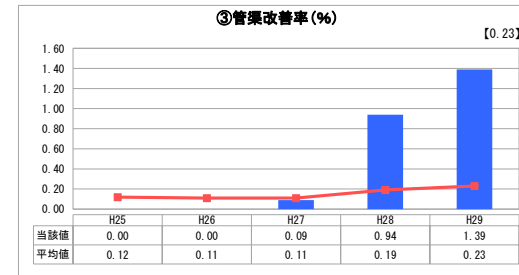
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率 ⑤経費回収率
収益的収支比率・経費回収率ともに、100%を下回っています。下水道使用料で賄えておらず、料金水準の適切性の改善が必要であります。

④企業債残高対事業規模比率
類似団体と比較してもここ4年間は下回っておりませんが、平成29年度は上昇に転じており企業債残高の減少に努めます。

⑦施設利用率
大規模病院の接続や区画整理事業地内の整備に伴う処理区域の拡大と終末処理場の処理方式の変更から平成28年度より平成29年度は上がったと考えます。

⑧水洗化率
少ない値ではあるが毎年水洗化率が上がっているため、今後も継続して普及啓発を行っていきます。

2. 老朽化の状況について

下水道管渠の耐用年数を50年と想定した場合、耐用年数を経過した管はまだないが、平成31年度までにストックマネジメント計画で管渠の点検や維持修繕等計画の作成を行う予定であります。

終末処理場や中継ポンプ場は長寿命化計画に基づき、平成30年度まで改築更新工事を行っており、以降はストックマネジメントの策定に基づき、計画的に施設の更新を実施していきます。

全体総括

経費回収率が適正値である100%より低く推移しており、未接続世帯への加入促進活動による個別訪問の取り組みなど、引き続き使用料収入の確保に努める必要があります。

平成32年度より地方公営企業法の適用を予定していることから、本市の経営状況・課題等を的確に把握し、今後とも経営強化に向けた取り組みを進め、公営企業の基本原則である独立採算制の実現や経営の健全性・効率性の改善を図ります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。